

銚子連絡道路いよいよ匝瑳市へ

この時期になると卒業ソングがたくさん流れるようになりますよね。他にも春の代名詞である桜を感じる歌や新生活のスタートを勇気付けてくれる応援ソングなど、もうそんな季節かと、昔を振り返りつい口ずさみたくなる春の歌。皆さんはどんな曲が思い浮かびますか？ 私は先月出席させていただいた演芸大会で聴いた「北国の春」が耳に残っています。

さて、既に報道発表などでご存じの人も多くいらっしゃると思いますが、今月の31日（日）15時に銚子連絡道路二期区間（横芝光町～匝瑳市の延長5km）が開通します。

この「銚子連絡道路」は、銚子市と山武市を連結し、山武・東総地域の道路ネットワークの骨格となります。首都圏中央連絡自動車道（圏央道）などの高規格道路と一体となって機能し、地域間相互の連携・交流の促進、国道126号の交通混雑の緩和、安全性の向上、物流の効率化、救急医療への支援など地域の活性化や県民生活の利便性の向上に資する道路となります。

私が申すのもおかしい話かもしれませんが、この道路の完成に向け、日々工事が進んでいく様子を眺めながら言葉にできない感情とまだ見ぬ匝瑳市の



未来への期待が湧き上がってきます。道路ネットワークの整備進展などによる効果を地域の活性化につなげるため、引き続き匝瑳インターチェンジ周辺の産業用地整備を進めてまいります。

また、開通に先立ちまして「匝瑳市・横芝光町スカイウォーク☆フェスティバル」が20日（水・祝）に開催されます。このイベントは開通前の道路を歩く「歩き初め」を皮切りに、イベントを盛り上げてくれるキッチンカーの出店やパフォーマーの出演などが予定されています。この大変貴重な機会に、夢と希望を持てるまちづくりに向け、多くの市民の皆さまと一緒に歩き出したと考えていますので、お誘い合わせの上ご参加ください（詳細は本紙3ページをご確認ください）。

市長に就任してはや2年、任期の折り返しを迎えます。初心忘るべからずおごり高ぶったり、油断したりする気持ちを戒め、引き続き思いっ切りチャレンジしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

匝瑳市長 宮内康幸

匝瑳探訪 疫病退散

飯塚を歩く

新型コロナウイルス感染症は発生から3年余りたった昨年5月「5類」へ移行され、収束へ向かいコロナ前の日常が戻りつつあります。

日本では紀元前から疫病の大流行があり奈良時代以降は天然痘やはしか、江戸時代にも風邪やコレラなどがま

ん延した時期があったとされます。

市内では疫病流行を伝える記録は見つかっていませんが、唯一「疫病から村を救った僧侶がいた」という言い伝えを飯塚地区で聞いたことがあります。昭和50年代に飯塚、吉田、金原新田



日實の題目塔

などの地区で10年ほど地域の人たちの協力を得て、1700年前後から1840年ごろまで徳川幕府から信仰活動を禁じられていた「日蓮宗不受不施派」の歴史を調べたことがありました。その時、飯塚地区御手洗集落の墓地にある題目塔がその僧侶の関係したものだとなりました。

昨年秋冬、京都から市内と多古町の寺や墓地の石塔を調べに見えた人を案内して、50年ぶりにその石塔を目にしました。

縦約78cmの題目塔の正面に「南無妙法蓮華経」、下部に「縁正日實」と刻まれました。この頃飯塚村で疫病がはやり、日實が経を「一萬三千五百部」唱え「退散」を祈ったのでしょうか。日實は「不受不施僧」の名簿によると、「飯塚村妙長寺」とあり、妙朝寺（通称・西の寺）21世と同一人物で、飯塚村を中心に信仰活動を行ったようで、1749（寛延2）年に死亡しました。

市内での不受不施派信仰は、およそ200年間に飯塚庵や金原新田庵を拠点に400人近い農民と50人ほどの不受僧の活動が確認されています。

日實の題目塔には花と令和5年春彼岸「脇、真々田」、同年秋彼岸「御手洗」集落の人たちにより真新しい塔婆が上げられ、300年続く日實へのあつい信仰が捧げられています。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班 ☎73・0080

文芸コーナー

力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課 広報広聴班
〒289-2198 匝瑳市八日市場 八793番地2
TEL 030-0080 FAX 030-1114

短歌

依知川 雅一 推薦

夫と我足してもならぬ一人前
足りない分は笑いで増やす

鈴木 志子

十六夜の冴え冴えとして冬の空
あたりを破いなおも静けき

古谷由美子

四年ぶりフラの発表会体感に
覚えし踊り無我の境地で

鈴木 知子

蠟梅は畑の角に香を放ち
境界線の役目を果たす

鈴木 和子

味噌づくり家族みんなの協力の
仕込みを終えて梅雨明けを待つ

宮内 ゆき

庭隅で梅を見上げる万両と
さえざる小鳥ともに春待つ

岩井のぶ子

空暗く小雨ばらつく昼下がりに
静かに咲けり白梅の花

大木 洋一

移動困難なりたるわれら三姉妹
聲に互みを案じ合ひをり

稲葉 雪子

窓下に狸一匹まどろめば
其に合はせて呼吸をしてみぬ

石田 治

俳句

椿 和枝 推薦

冬晴や細きかひなの阿修羅像
蠟梅の香りかすかに齒科医院

山崎智恵子
安藤 建子

アンカーの口許締めまり日脚伸び
節分の肌にたつぷり化粧水

椎名 晴江
鈴木 志子

図書館へ妻の誘ひや黄水仙
冴返るドクターヘリの音高し

那須 恒雄
佐々木之子
伊橋 勝利

窓枠が額になったり寒椿
萬紅葉学舎の壁を覆ひみき
春いまだ遠し寄せ来る波荒し

川口 城司 推薦
野仲 妙子
石田 健
佐藤 和夫

川柳

勝又 康之 推薦

人生は苦労重ねて末は楽
耐え忍ぶ生きる喜びきつと来る

佐久間美智子
土屋 秀雄
鶴澤 澄子

人生は鈍行で良いあせらずに
限りある人生だからマイペース

林 長三郎
中村 九藏
安藤 幸恵

夢捨てず長い患い日々笑顔
◆公民館まつり川柳大賞 お題「春」
淡く消え初恋のよう春の雪

江波戸京子
川口 城司 推薦

寒い夜コンビニおでんよく売れる
イケメンの医師に会う日は念入りに

須貝 玉泉
野仲てつ幹

BOOK APARTMENT



本棚区画オーナーさん分布図

いい価値を付けて拡散することができるのでは、と考えています。一緒にやっていきませんか。

地域おこし協力隊員の／ キラッとふるさと通信 No.1

交通の要衝の潜在力

3月にオープンする地域の居場所「ブックカフェ&リユースぐるり」では、本棚の区画貸し制度に挑戦しています。執筆時点で利用者は51人で、周辺自治体にお住まいの人のご利用も多くなっていることから（＝右図）、交通の要衝である匝瑳市の「地域活性のハブ」としての現在の潜在力を感じました。

歴史を見れば、匝瑳市は古くから東総地域の交通の要衝であり、法務局や

本市の新たな魅力を発掘する地域おこし協力隊員・北條将徳さんが、活動を通じて発見した「匝瑳の輝き」を紹介します。

簡易裁判所があるというもうなずけます。

古くから、人の暮らしにとって交通は“自由”をつかさどる重要な要素でありました。コロナ禍を経て浸透したリモートワークや、自動運転の発展という技術革新があっても、「自分の意思で身体を動かして移動したい」という身体性からの願望は変わりません。

今後は本棚オーナーや利用者の皆さんが集うことで、匝瑳市の魅力を皆さんと一緒に再発見し、お店という“目に見える地域メディア”として、新し